

現在、ポータビリティを重視したヴァージナルとクラヴィコードを開発しています。どちらも長さは約120 cmですので、車の後部座席に楽に入る大きさです。ヴァージナルについては通奏低音勉強用、および可搬性を生かしてアンサンブル練習に役立つモデルを目指しています。詳細が決まりましたら、ご報告致します。また、クラヴィコードにつきましては、試作を完了しましたので、今回概略を報告致します。

また、八王子市の文化財団でのワークショップを機に製作したモノコードについて、また、今年のチャペルコンサート「オルガンの散歩」の予定を述べます。また、補足資料として、「オルガンの散歩」での中学生、高校生の演奏者募集の案内、また、小中学生、高校生にクラヴィコードを無償貸与する「未来のクラヴィコード」委員会の募集案内を載せました。

新型クラヴィコードについて

今まで、ベルリンにある大型のフーベルト(1784)をベースに作って参りました。昨年、新たなクラヴィコードの試作が完了しましたので、ご報告いたします。このタイプは2010年より年5台ほど製作する予定です。この楽器についての詳細レポート(英文)は2009年春に作成します。今回は製作の目的と楽器の概要を中心に述べる事とします。

(目的) 今日、18世紀のクラヴィコードが多く作られますが、17世紀以前の楽器についてはあまり触れる機会がありません。勢い、18世紀の楽器の方が様々な工夫が盛り込まれているために、低音から高音まで均質で、完成度が高い様な印象を持ってしまう事が多い様です。では、17世紀以前のクラヴィコードはどんな魅力を持っていて、当時の音楽とどうマッチングするか、現時点では、あまりよく理解されていません。当時の音楽、あるいはまた、音楽家つまり作曲家の活動を研究する上で、何かの手がかりになる事を期待して製作する事と致しました。

(オリジナル楽器の選択)

17世紀のクラヴィコードを調べてみると、ほとんどの楽器において、低音がC/Eのショートオクターブとなっています。手元のいくつかの図面を見ると、1774年のGrazで作られた楽器もC/Eのショートオクターブとなっています。(C/Eのショートオクターブとは、見かけ上鍵盤はEの音から始まっていますが、それをド、F#をレ、G#をミと調律するもの、16世紀まではほとんどの鍵盤楽器はこのようになっていました。)続く17世紀にはチェンバロではショートオクターブでない楽器も登場しますが、クラヴィコードでは、演奏よりも、作曲を含む音楽的作業に用いられた事や、あるいは小型、軽量である事の方が優先されたため、ショートオクターブのものが多いようです。したがって、音楽史を主眼にすれば、クラヴィコードにおいては、より一般的だった、このショートオクターブの楽器を製作するべきでした。しかし、今回は、現代における使いやすさを優先し、ショートオクターブでない楽器を探し、それをモデルとしました。このため、1700年まで下ってしまいました。

モデルにしたものはライブツィヒにある Johannn Jacob Donat, Leipzig 1700 です。この図面から一部の点を除いて寸法は、ほぼそのまま製作しました。

寸法 1230 x 345 x 85 /底板 18t

音域 C ~ c3 chromatic Double fretted

(この楽器の特徴)

もしかすると、この楽器は、2段鍵盤にするために、大きなケースに納められていた2台のクラヴィコードの下鍵盤だったのかもしれませんが。(下記1、2、5による)

- 1 フタが無い。フタを取り付けた痕跡も無い。
- 2 ケースの高さがとても低い。
- 3 ナチュラルキーとシャープキーの別無く、バランスピンの位置が一直線に並んでいる。つまり、シャープキーを弾く時は、バランスピンに近い所を弾く事となる。また、このため、バランスレールの幅がせまい。(とても細いバランスレールとなっている。)
- 4 3にも関係するのだが、シャープキーがこの時代にしては少し長い。このため、シャープが特に弾きにくい、という事は無い。
- 5 ロゼッタがある このため、ベリーレール(響板の左端が載っている木、キーボードとの境となる)に穴(マウスホールと呼ばれる)が無い。
- 6 フレッシング(どのキーと、どのキーで同じ弦で使うか)が各オクターブで均一で無い。
- 7 Hubert Henkel 著 Clavichorde によれば共鳴胴の中は、響板の下面を除いて、一面に細かい砂がにかわで固めてある、と欠いてある様だ。

(製作に当たり変更した点)

- 1 底板を 21mm とした。このため楽器の高さが 88mm となったが、共鳴胴の高さ容積は変わらない様にした。
- 2 フタを付けた。
- 3 フーベルトの楽器の底板の下部レイヤーに見られる様に、底板の木目を斜めにし、木目を弦とほぼ平行に取った。これにより、対角力木(diagonal brace) を小型化できると考えた。
- 4 ナチュラルキーのキートップはフーベルトモデルの楽器製作時に試行したように、厚みを均一でなく、奥に行くに従って、薄くなる様にした。 また、ネームボードまで達する事なく、そのだいぶ手前で厚み 0 としている。
- 5 レストプランク（チューニングピンが立てられる堅い木、響板の下にある）はオリジナルの図面や写真を見る限り、底板に全面的に接着されているようだが、この楽器の様にレストプランクがケースの右辺に密着せず、上から見て、斜であると、奏者から見て、右奥に三角形の密閉された空間ができ、この部分が太鼓の様に固有振動を有し、影響するはずである。 この考えに基づいて、レストプランクの一部において、底板との間に大きなトンネルを設けて、先の三角形の部分を共鳴胴と連続する様にしている。 なお、このため、レストプランクに立てられるチューニングピンを短い物にする必要が生じ、モダンチューニングピンとなっている。

（結果について）

全体をほとんどエゾ松で製作したため、軽い楽器となっています。 今年は、キャリングバッグも用意しました。 弦の張力がとても低いためか、あるいは共鳴胴が薄いためか、フーベルトのような楽器自体の残響は少なく、素朴な音で、指先の僅かな違いがすべて音に出る楽器になりました。 18 世紀のクラヴィコードと異なり、ピアノから遠いものと言った感があります。

モノコードについて

首記ワークショップを機に、子供が音階について考える助けになる様、モノコードを 10 個作りしました。 可動式の駒を動かして、色々な音階を作る事が出来ます。 弦の長さを整数比で取った音階と、平均率で取った音階の両方の駒の位置を印してあり、違いを見る事ができます。 また、1 オクターブのキーボードを取り付けてキードモノコードとして弾いてみる事ができます。 簡単な説明資料と共に全国どこへでも貸し出します。 無料。

オルガンの散歩 2008

Una passeggiata d'organo 2008

2008 3 1 版

於 八王子ホテルニューグランド チャペル グランドヴィクトリア

This church is originally built at Barrowford England in the 19th century. But it was demolished 129 years after its birth due to the land readjustment of the town. All the bricks were numbered and brought to Hachioji and the church was rebuilt as it had ever been. With very tall roundarch stained-glass windows, marble floor and very high vault permit us to play the so-called early music on the organ and other historical instruments such as Italian spinet, arclute and stringed instruments in the style of the period. We are now pleased to announce a concert held in this very fine European architecture. The organ which has been used in the series of the concerts is a four-stop chamber organ built by Mr Selway Robson, who lives in South Africa. He builds all his instruments with African wood. It has small bellows under the keyboard and is blown by means of foot pumping instead of electrical blowing.

We are happy if we could see you at the concert.

高い天井、明るいステンドグラス。 広い大理石の床。 このチャペルはもともと 1867 年英国 Barrowford に建てられたハイヤーフォードメソジスト教会。 築後 129 年目にして、区画整理に合い、取り壊される事に。 取り壊しに際しては、レンガ一個一個に番号を付け八王子へ移送後、細部まで元通りに建てられました。 このチャペルではオルガンや各種弦楽器等の音が空間いっぱいに広がります。 このすぐれたヨーロッパ建築の響きに支えられて初めて、比較的初期の音楽、おおよそ 17 世紀以前の音楽の演奏が可能となるばかりでなく、私達が普段の生活の中に生の音楽をもう一度置いてみる、一つのきっかけになる事と存じます。 気軽なコンサートですので、多くのお子さんも楽しめるものです。 何歳の方でもお越し下さい。 前から 2 列がご家族のための優先席です。 市民の手によるささやかな会ではございますが、ご案内申し上げます。

於 八王子ホテルニューグランド チャペルグランドヴィクトリア（正面の階段をお上がり下さい。） ホテル内のエレベーターより、チャペルに入る方法もあります。 ご希望の方はご連絡下さい。 当日ご案内いたします。

予約不要、先着 100 名程、入場できます。

開演 午後 6 時 30 分 6 時ごろより、お客さま入場に合わせて何曲か奏される事があります。（プレコンサート）

入場料は特にありません。（皆様の募金により続けて参ります。）

コンサートの内容が一部変更になる場合がありますが、どうぞご了承下さい。

問い合わせ 山野辺暁彦 〒192-0912八王子市絹ヶ丘1-38-1
tel/fax 042-635-3784

3月25日(火)オルガンの散歩 その17 赤ちゃん~子供も大歓迎
アンサンブル〈ムシカ・ポエティカ〉淡野弓子、淡野太郎、今村ゆかり、影山照子他
岡田龍之介(チェンバロ)、浅尾直子(オルガン)、藤原一弘(オルガン)、三重野清顕(クラヴィコード)
山崎千恵(ソプラノ)安藤由香(リコーダー)吉見伊代(チェンバロ)
高橋美千子(ソプラノ)他多数

オルガンの散歩 その18 は8月ごろを予定しています。

補足資料 1

「オルガンの散歩」でのアンサンブルおよびチェンバロ独奏者募集のご案内

2008 3月 1日

前略

八王子ホテルニューグランド内のチャペル、グランドビクトリアにおいて、「オルガンの散歩」というコンサートシリーズを行っていますが、中学生、高校生さんに、バロック時代の音楽あるいは、それ以前の音楽を知って頂くため、またヨーロッパ建築の音の響き等を体感して頂くために、下記の楽器等について演奏者を募集致しています。

1 アンサンブルについて

「オルガンの散歩」では、お客さま入場時に様々な楽器や声楽を含んだプレコンサートを担当します。年間を通して、月1回程度の練習ですが、本番前は2週続く事もあります。参加は無料です、また、下記それぞれの楽器も貸与致します。応募者多数の場合は楽器を入手できるまで少々お待ち頂く場合がございます。なお、これら以外の楽器あるいは声楽で参加を希望される方は個別にご相談下さい。

対象 中学生または高校生

1年程度参加可能な方で興味のある方。各楽器をある程度弾ける方。語学に興味のある方。必要な場合はラテン語あるいはフランス語かイタリア語の1日レッスンも計画します。

人数 次の各楽器1名

バロックヴァイオリン、バロックヴィオラ、チェロ、チェンバロ(通奏低音)

なお、チェンバロの方は、いわゆる通奏低音を、別途、勉強して頂く必要があります。

貸与楽器 バロックヴァイオリン; フィリップクイケン2000年製作

弓; ルイ・ベジャン フランス17世紀スタイル

バロックヴィオラ; モダンヴィオラにガット弦をはったもの

弓; ファウスト・カンジェロッシ 18世紀イタリアスタイル

チェロ; 1980年ごろ旧チェコスロバキア製 ガット弦を張り、バロック楽器として使える状態です。

弓; ファウスト・カンジェロッシ 17世紀イタリアスタイル

練習用チェンバロ 山野辺暁彦 1990年ごろ製作 良いものではありません。

募集期間 随時

費用 楽器の貸し出し、練習への参加も無料です。チェンバロの方には調律の基礎や楽器のメンテナンスについてご指導します(無料)。チェンバロについては、自家用車等での運搬等、ご手配をお願いします。

練習場所 於; 山野辺宅他

2 チェンバロ独奏について

「オルガンの散歩」の途中休憩後、第2部が始まる時に、チェンバロ(ヴァージナル)独奏の時間(天使の時間)を設けています。普段ピアノで弾いている、やさしい曲をチェンバロで弾いてみましょう。C(中央のどから2オクターブ下のド)からc3(中央のドより2オクターブ上のド)の4オクターブで弾ける曲を選択して下さい。ご希望の演奏曲をご連絡下さい。

対象 小学生または中学生

募集期間 随時 練習時間を設けますので、希望者は弾きにいらして下さい。
費用 無料

草々

問い合わせ先
オルガン散歩の会
〒192-0912 八王子市絹ヶ丘1-38-1 山野辺暁彦
tel/fax 042-635-3784

補足資料 2

「未来のクラヴィコード」委員会について 2007 11月 30日

拝啓

寒さがまして参りますこの頃ですが、如何おすごしでしょうか。

昨年、当工房 The Incredible Instrument Workshop 内に「未来のクラヴィコード」委員会を設置しました。この委員会はクラヴィコードを有効に使う下さる小中学生、高校生の皆さんに、クラヴィコードを無償で貸し出そうというものです。中高生さんには小論文を書いて頂き、これによってのみ審査し、決定します。なお、音楽経験は関係ありません。

「未来のクラヴィコード」委員会

対象 小中学生または高校生 人数 若干名

貸与楽器

フレットド（共有弦の）クラヴィコード／スタンド無し（良い物ではありません。）

期間 随時 1年間の無料貸し出し。

費用 楽器の貸し出し、及び、こちらからの送料は委員会負担。調律の基礎や楽器のメンテナンスについてご指導します（無料）。返却時の送料（3000円～8000円程度）のみご負担ください。お願い 使わなくなった場合はすぐ返却下さい。

応募方法 2000字程度の小論文による。もし、楽器に空きが無ければしばらくお待ち頂く事になります。

お名前、ご住所、電話番号、小論文のテーマを明記の上、小論文を下記へ郵送下さい。小論文では、鍵盤楽器についての夢、どうしたら良い音楽がもっと身近なものとなるか、これから望まれる社会と音楽のあり方、その他未来へのメッセージであれば何でも結構です。あまり大きくとらえずに、身近な自分で出来そうなことから考えをまとめて頂くと良いと思います。用紙、書式は自由ですが、手書きに限らせて頂きます。なお、論旨が明瞭でない場合、あるいは、音楽をより身近なものとしようとする当委員会の主旨と大きく異なる場合は対象から除外されます。

終了時 1年経過時にホームコンサートの様なものを計画して下さい。家族だけでなく、1人でもよいので友達等を聴衆としてお誘い下さい。演奏曲目、その他すべて自由です。もしあれば、その案内（チラシ）や、当日のプログラムを楽器返却時に当委員会へお送り下さい。

なお、大変勝手ながら小論文を拝見しての、貸し出しの可否は当方にご一任下さい。

決定後、即日、電話等でご連絡致します。

ご応募をお待ちしております。

敬具
山野辺暁彦

問い合わせ先
The Incredible Instrument Workshop
〒192-0912 八王子市絹ヶ丘1-38-1 山野辺暁彦
tel/fax 042-635-3784